



第十号
北海道礼文高等学校同窓会
発行日
平成二十九年三月三十日



「潮騒」第十号に
よせて」
同窓会会長
遠藤 伸樹(十期)

春寒の候、同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。現在、同窓会長を務めさせていただいております第十期の遠藤伸樹です。まだまだ若輩者ではありますが、同窓会と礼文高校の発展に向け努力してまいりますので、今後とも皆様の同窓会活動へのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、去る二月二十八日に今年度の入会式を執り行い、五名の新会員を迎え同窓会員も千四十六名となりました。入会式では、これまで支えてくれた周囲への感謝の気持ち、友人と深い絆を築いてきた絆、これから出会うであろう沢山の方々との「縁」を大切に、大きく羽ばたいて下さいとお話しさせていただきました。若い方々のこれからの活躍に期待を寄せたところでです。

また、我が母校、礼文高校は今年で四十周年を迎えます。これまでに千名を超える卒業生を輩出し島内をはじめ

全国各地、中には国外で活躍される会員が居られるのも、当時礼文高校の設置に尽力された方々、これまで指導して下さった大勢の先生方、そして温かく見守り支えて下さった地域の皆さんのおかげと、改めて感謝するところで。

しかし、地方の人口減少、少子化の波は礼文島にも容赦なく押し寄せており、人口は三千人を割り込む二千六百三十人まで減少し、礼文高校の生徒数も十九名となり将来の存続に危機感を抱かざるを得ない状況ではありましたが、五年目を迎えたアメリカへの短期留学事業や資格取得支援など、礼文町の高校存続に向けた手厚い支援もあり来年度は十二名の新入生を迎えることとなりました。すでに親子二代で同窓会員となられた先輩も大勢いらっしゃいますが、私もわが子がこの春に礼文高校に入学することとなり、二十七年前の卒業時には想像すら出来ませんでした。深い感慨を覚える次第です。

本来であれば、これまでの礼文高校を築き上げてきた同窓会員の皆さんや地域の方々と共に、四十周年を盛大に祝うべきところですが、関係者と相談

し、この度は祝賀行事はせず、来るべき五十周年、半世紀という大きな節目に向けて一致団結して進んでいこうということにさせていただきました。後段でお知らせのとおり、礼高祭などの行事の際に四十周年を記念した取り組みを行うことといたしました。会員皆様におかれましてはご理解を頂くとともに、メッセージの募集などにご協力いただければ幸いです。

最後に「潮騒」第十号を発刊するにあたりご協力いただいた役員ならびに学年幹事の皆さま、快くご寄稿くださった佐竹校長先生、伊藤先生ありがとうございました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。



「潮騒」第十号に
よせて」
北海道礼文高等学校
校長 菅原 史彦

礼文高校同窓生の皆様には、ご健勝でお過ごしのことと存じます。

今年度は本校創立40周年を迎え、諸先輩方の築いた輝かしい歴史と伝統に学び、新しい時代への一層の飛躍を期待する年となるよう努力していきたく決意しております。

本校では、礼文町の支援のもと海外交流事業を5年前から実施しており、アメリカ・ロサンゼルスを中心に約2週間ホームステイなどを行いながら、異文化を学ぶ貴重な体験活動を実施しています。

これまで、5年間で26名の生徒が参加しており、地元の高校生との交流や日本領事館でのプレゼンテーション、生け花や折り紙などの日本文化を伝えるなど、海外の異なる文化や歴史を学ぶとともに、日本の良き伝統や礼文の魅力を発信してきました。

特に今年は、生徒が夏休み返上で練習してきた「よさこいソーラン」を5周年記念式典や学校で演舞することができ、大歓声で迎えられました。

一年生希望者全員が参加できるこの事業は、生徒が国際的視野を深めるための貴重な教育活動であり、私たちはグローバルとローカルを兼ね備えた魅力ある学校づくりを礼文町とともに取り組む必要があると考えております。

平成29年度は4年ぶりに2桁の生徒が入学してくる予定でおります。

これからも学校を益々活性化させていくことで、地域から信頼され、同窓生の皆様から誇りに思われる学校となるよう努力していく所存であります。

今後とも同窓生のご支援をお願いするとともに、同窓会の益々の発展をお祈り申し上げます。

旧職員よりメッセージ



『心のふるさと』

北海道檜山北高等学校

校長 佐竹 卓

礼文高校の創立四十周年を心よりお祝い申し上げます。

平成二十一年四月一日に新米校長として礼文高校に着任し、何事にもひたむきに努力する生徒たち、生徒思いで熱心な教職員、心温かな保護者の方や地域の皆さんに恵まれ、充実した三年間を過ごすことができました。

在任期間中、礼文町からの厚いご支援をいただきながら、礼文学の充実、見学旅行における京都での観光大使活動・料亭見学、ユネスコスクールへの登録、南加道産子会の阿岸先生との出会いと海外交流事業への計画など、生徒・教職員と共に様々な取組を進めることができました。私にとって礼文高校は、「心のふるさと」と呼べる、かけがえない時間を過ごした特別な場所となりました。

また、礼文町の「保・小・中・高の教育連携」によって、町内の小学校、中学校へ足を運び、授業を参観する機会を多く得ることができました。小・中学校の先生方の発問・指示等の確さなど、学ぶところが数多くありました。礼文町の子どもたちを小・中・高の十二年間で育てていくために、高校ではどのような

教育活動を展開していけば良いのかを自問自答する機会をいただきました。小・中学校の校長先生方からも多くのご助言をいただきました。「保・小・中・高の教育連携」で学んだことが、私にとって大きな財産となり、現任校での学校経営にも随分と生かされていることを自覚しています。

礼文高校の校歌にある「...きびしくも風雪に耐え、秋冬を誠と集い、礼文高校、その名をたたえん」には、礼高生のひたむきに真摯に学ぶ姿がぎゅーと詰まっています。礼文高校在任中、校歌斉唱時には、いつも心の中で生徒たちに「共に頑張ろう！」と呼びかけていました。

これからも、礼文高校並びに礼高同窓会が、厳しい風雪に耐えながら、益々ご発展することを、心よりお祈りいたしております。



『礼文町で過ごした8年間』

北海道札幌琴似工業高校

教諭 伊藤 政伸

「離島の高校に勤めてみたい」その念願がかなった四十歳の八年間は礼文町民になりました。礼文を離れた今だからこそ、なおさら礼文の素晴らしさを実感する毎日です。

私は現在、札幌琴似工業高校定時制

で電気科二年生男子ばかり九名の担任をしています。礼文高校では記念すべき三十期生男子九名女子十二名計二十一名の担任でしたから、人数は半分以下ですが、一人ひとりに倍以上の手がかかるので労力は変わりません。それでも礼文のときと姿勢は変えずに、個性を尊重し楽しく和気あいあいと教育活動をしています。

礼文町での生活でまず考えたことは、学校の中での繋がりだけでなく、広く礼文町民の方々とも繋がりたいという思いでした。そこで礼文高校でも取り組んでいた“礼文太鼓”の存在を知り、「礼文太鼓保存会」に入会させていただきました。生れて初めて叩く太鼓の音もさることながら、学校以外での町民の方との繋がりは新鮮な気持ちにさせてもらいました。太鼓の経験は一生忘れられないものとなりました。

教師としての仕事では、創立三十周年を迎えるタイミングで、三十期生の担任を受け持たせていただいたことを光栄に思います。三十期生に限らず礼文の子どもたちは皆優しく、純粹で一生懸命に取り組むので、教師冥利に尽きる思いでした。しかし、年々生徒数が減少していき、存続が危ぶまれる時期でもあり、当時の先生方はどうやって生徒増につながるのかと頭を悩ませていました。そんなとき、三十二期生の堀内君がアメリカでのホームステイプログラムに応募し、選考された

ことがきっかけで、当時の佐竹校長と小野町長のご尽力があり、南加道産子会との繋がりができて、礼文町独自のホームステイプログラムが誕生したのです。この海外交流事業が平成二十八年で五年目を迎えたということを知り、礼文高校生はとても幸せで貴重な経験をさせてもらっており、きっと未来の礼文町に還元してくれることと期待しています。

このほかにも、ノルディックウォーキングで島中のトレッキングコースを制覇し、豊かな自然を堪能したことなど、語りつくせないほどの思い出がたくさんあり、私の礼文町での八年間は、当時の生徒たちはもとより、同窓生の皆さんや町民の方々とお近づきになれたことによって、単身赴任でも居心地が良く、あつという間に過ぎていきました。

十年ひと昔と言いますが、早いもので平成二十九年度は創立四十周年になるそうです。お祝いを申し上げますとともに、私も大好きになった礼文町と礼文高校が、同窓生をはじめ町民の皆様のおかげをもって、益々発展していくことを願って止みません。



高校生活を振り返って



第三十七期
佐藤 礼実

皆さんこんにちは。三月に卒業しました。佐藤礼実です。

私は香深中学校からの唯一の入学生として礼文高校に入学しました。船泊の四人とは、中学の部活で交流した人もいますが、話したことがない人もいて、最初は四人の中に飛び込んでいけるか、話に参加していけるか不安な面がありました。いざ入学してみると、四人は、私に分からないことはなるべく話さないでくれたり、知らないような話は説明してくれたり、最初のころに思っていた不安はすぐに解消され、馴染むことができました。

一年生の時の海外交流では、見るもの体験すること何もかもが初めてで、毎日が刺激の連続でした。私が礼文高校に入学しようとしたのも、海外交流があることが理由の一つでした。私は将来、海外で働くことも視野に入れています。そこで実際にグローバルな体験をするためにアメリカに行き、様々なことを学びたいと考えて参加しました。飛行機がLAに着き、飛行場を出るとそこは、私が初めて見る世界で、車も、建物も、空気のにおいも、何もかもが新鮮で興奮が止まりませんでし

た。アメリカでは二軒のお宅にホーム

ステイをさせていただきました。一軒目は英語と日本語を混ぜながら、二軒目は英語のみでコミュニケーションをとりました。ホストファミリーの皆さんは本当に優しく接してくださいました。ホームステイを通してアメリカの文化や生活習慣と共に、相手に伝える力や身につけました。日本にはない習慣や食生活、そしてイベントなどをたくさん体験することができました。日本で多少の日常英会話を学んだので、そんなに困ったことはありませんでしたが、英語をどのように話せばいいのかわからない時に、日本ではあまり使わないジェスチャーを使ったり、簡単にそれに近い言葉を使ったりと、体を使って自分の言いたいことを表現することを学びました。言いたいことが伝わったときは、それはもう、本当にうれしかったです。

家族の温かさに触れ、様々なことを学び、ホームステイをしてよかったです。今度LAに旅行に行つたときには、またお会いしたいです。海外交流では他にも学校交流もしました。私が一番印象に残っているのはユニバーサル高校です。そこはとてもグローバルな学校で、約70カ国以上から集まった生徒



が在籍しています。

授業見学をさせていただいたときに、様々な国の人が世界共通語と言われている英語でコミュニケーションをとっていました。それを見て私は、自分も将来、このようなグローバルな場で仕事をしたい、と改めて思いました。

二年生の時の職場体験実習では、地域の皆様のご協力をいただき、自分の希望する職場で働かせていただきました。私は観光業に興味があったので、フェリーターミナルの観光案内所で働かせていただきました。夏になるとたくさん観光客が訪れますが、その中には外国人観光客もたくさんいます。

実際に、外国人観光客が窓口に来た際に、私も中国語を使って観光案内をさせていただきました。実習を通して、将来外国語を使った仕事に就きたいと強く思うと共に、礼文島に訪れる外国人観光客が思っていた以上に多いことに驚きました。

見学旅行では、京都、東京、大阪に行きました。着物を着て八坂神社を散策したり、料亭見学をさせていただいたりしました。料亭見学では、コース料理をいただき、その中に利尻昆布を使ったものもありました。利尻昆布の



おいしさを改めて感じると共に、利尻昆布が和食には欠かせないものだ」と知り、礼文の産産を誇らしく思いました。

観光大使活動では、東京の品川駅でたくさんの方々から礼文島をPRしました。礼文を知っている方や行ったことがある方もいて、私たちが思っている以上に礼文島はたくさんの方々から知られていました。小・中・高と続けてきた観光大使活動により、この素晴らしい礼文島に対してたくさんの方々に興味を持ってもらい、足を運んでもらえたらうれしいです。



三年間、様々な学校行事がありました。日常の勉強も頑張りましたが、さらに頑張ったことが二つあります。

一つ目は、部活動です。私は音楽が好きで、礼文高校に入学したら軽音楽部に入ろうと中学の頃から決めていました。特に得意な楽器もないまま、最初はボーカルを担当していましたが、先輩が卒業すると人数が足りなくなり、ギター、ベースも弾くようになりまし

痛かったり、全然音が出なかったり、できない自分を悔しく思う日もありました。しかし、今では歌いながら楽器を弾けるようになりました。私は軽音楽部を通して、演奏の技術的な面を学ぶと共に、続ける大切さを学び、協調性、忍耐力を身につけることができました。特にライブは一人でできるものではないので、みんなの音を聞いて周りに合わせながら演奏することが大切だと分かりました。

なかなか音が合わず辛かったこと、苦しかったこともありましたが、みんなで乗り越えて成功をさせることができました。この学びを日々の生活やこれからの生活かしていきたいと思えます。

二つ目は、生徒会活動です。私は三年間生徒会活動に取り組みました。最初は書記として、二年生後半から生徒会長として務めさせていただきました。高校に入学したら様々なことにチャレンジしていきたいと思っていたので、生徒会活動を通して総合的に自分を成長させていきたいと考えて立候補しました。最初は仕事に慣れるのに精一杯でしたが、段々慣れていき、行事運営や計画作り、生徒会誌『島つ子』編集や自動販売機の管理など、たくさんの



仕事をさせていたきました。生徒会を通して、周りをよく見ることに、効率よく仕事を進めること、何事にも最後まで手を抜かないことなど、様々なことを学びました。会長になると前に出て話をする場面も多く、今ではあまり緊張なく人前で話せるようになりまし。また、会議などでは意見をだしなければ何も始まらないので、どんな意見を出したり、分からないことはすぐに聞いたりして、積極性も増した気がします。全てが思い通りにできたとは言えませんが、これだけ多くのことを学ぶことができたので立候補してよかったと改めて思っています。

三年間、チャレンジを目標に、様々な活動をしてきましたが、どれも私にとって思い出深く、やってよかったと思えることばかりでした。

私は、四月から四年間、中国の北京の大学に留学します。少し不安な面もありますが、高校で学んだことを存分に生かして、大学でも自分のやりたいことに向かって向上心と積極性を持ってチャレンジしていきたいと思っています。



仕事をさせていたきました。生徒会を通して、周りをよく見ることに、効率よく仕事を進めること、何事にも最後まで手を抜かないことなど、様々なことを学びました。会長になると前に出て話をする場面も多く、今ではあまり緊張なく人前で話せるようになりまし。また、会議などでは意見をだしなければ何も始まらないので、どんな意見を出したり、分からないことはすぐに聞いたりして、積極性も増した気がします。全てが思い通りにできたとは言えませんが、これだけ多くのことを学ぶことができたので立候補してよかったと改めて思っています。

三年間、チャレンジを目標に、様々な活動をしてきましたが、どれも私にとって思い出深く、やってよかったと思えることばかりでした。

私は、四月から四年間、中国の北京の大学に留学します。少し不安な面もありますが、高校で学んだことを存分に生かして、大学でも自分のやりたいことに向かって向上心と積極性を持ってチャレンジしていきたいと思っています。

仕事をさせていたきました。生徒会を通して、周りをよく見ることに、効率よく仕事を進めること、何事にも最後まで手を抜かないことなど、様々なことを学びました。会長になると前に出て話をする場面も多く、今ではあまり緊張なく人前で話せるようになりまし。また、会議などでは意見をだしなければ何も始まらないので、どんな意見を出したり、分からないことはすぐに聞いたりして、積極性も増した気がします。全てが思い通りにできたとは言えませんが、これだけ多くのことを学ぶことができたので立候補してよかったと改めて思っています。

三年間、チャレンジを目標に、様々な活動をしてきましたが、どれも私にとって思い出深く、やってよかったと思えることばかりでした。

私は、四月から四年間、中国の北京の大学に留学します。少し不安な面もありますが、高校で学んだことを存分に生かして、大学でも自分のやりたいことに向かって向上心と積極性を持ってチャレンジしていきたいと思っています。



卒業生進路状況

進路	就職		進学			その他	合計
	島内	道内	大学	短大	専門		
男	0	1	2	0	1	0	4
女	0	0	0	0	0	1	1
合計	0	1	2	0	1	1	5

礼文高校の平成28年度

在籍数

学年	1年	2年	3年
人数	7	7	5

部活動報告

バスケットボール部

平成28年度名寄支部高等学校春季バスケットボール大会
1回戦敗退

平成28年度第59回名寄支部北ブロックバスケットボール新人大会
宗谷管内 3位

陸上部

平成28年度 第63回高体連名寄支部陸上競技選手権大会
兼 第69回北海道高等学校陸上競技選手権大会名寄支部予選会

400m 嶋谷翔太 (2A) 予選
800m 嶋谷翔太 (2A) 予選
相原冬偉 (2A) 予選
1500m 宮崎唯斗 (3A) 6位
相原冬偉 (2A) 10位
5000m 宮崎唯斗 (3A) 2位 **全道大会出場権獲得**

第69回北海道高等学校陸上競技選手権大会 兼
秩父宮賜杯第69回全国高等学校陸上競技対校選手権大会北海道予選会
5000m 宮崎唯斗 (3A) 予選

平成28年度 第31回高体連名寄支部新人陸上競技選手権大会
兼 第32回北海道高等学校新人陸上競技選手権大会名寄支部予選会

400m 嶋谷翔太 (2A) 予選
800m 嶋谷翔太 (2A) 予選

バドミントン部

平成28年度北海道高等学校体育連盟名寄支部新人バドミントン選手権大会 兼 第49回北海道高等学校新人バドミントン大会名寄支部予選会

女子ダブルス 佐藤・高木組 1回戦
女子シングルス 佐藤 瑠 (1A) 2回戦
高木りこ (1A) 2回戦

文芸部

平成28年度北海道高等学校文化連盟道北支部書道展・研究大会
優秀賞 支部美紀 (1A)

平成28年度北海道高等学校文化連盟第50回全道高等学校書道展・研究大会
出品 支部美紀 (1A)

軽音楽部

5月13日 (金) 校内ライブ
7月17日 (日) 学校祭ライブ
11月 4日 (金) 校内ライブ
11月13日 (日) 文化フェスティバル出場
3月 1日 (水) 卒業式退場曲演奏

放送局

平成29年度名より大会出場を目指し活動しています。

行事紹介



第39回入学生 7名



赤岩地区清掃&校内プランター作り



最北フラワーマラソン参加



体育大会 (夏季・冬季)



授業風景 (生活産業 養殖昆布)

- 4月 始業式
入学式
生徒総会
対面式
個人面談
認証式
防犯交通安全&薬物乱用防止講話
- 5月 全島一斉クリーン作戦
進路面談
健康相談
高体連支部大会
第1回授業参観期間
AED講習会
進路講話
春季防災避難訓練
- 6月 礼高クリーン&グリーン作戦
宿泊研修 (1年)
進路面談
職場体験実習 (2年生)
ネットトラブル防止&ケータイ安全講話
- 7月 学校祭
夏期講習
- 8月 芸術鑑賞
進路面談
- 9月 夏季体育大会
海外交流事業
生徒会役員選挙
前期終業式
- 10月 後期始業式
進路講話
生徒会役員認証式
個人面談
見学旅行 (2年生)
第2回授業参観期間
秋季防災避難訓練
- 11月 健康相談月間
進路面談
性教育&デートDV防止講話
- 12月 冬季体育大会
冬期講習
進路講話
- 2月 進路面談
- 3月 卒業式
終業式



宿泊研修 (稚内 1学年)



礼文町一斉クリーン作戦



職場体験実習 (2学年)



学校生 (アミューズメント出店)



授業風景 (体育 プール)

平成28年度同窓会会務報告

平成28年

- 7月 7日 (木) ……第1回役員会
- 10月14日 (金) ……第2回役員会・学年幹事会
- 11月19日 (土) ……同窓会総会

平成29年

- 1月23日 (月) ……第3回役員会
- 2月28日 (火) ……同窓会入会式・役員会
- ※特別事業……同窓会会報『潮騒』10号発行

礼文高校同窓会役員名簿

会 長	遠 藤 伸 樹 (10期)
副 会 長	山 口 大 輔 (15期)
	新 山 雅 美 (20期)
	小 沢 沙 耶 花 (22期)
監 査	平 山 千 鶴 (6期)
	福 士 清 吾 (24期)
	山 本 桃 子 (29期)
事務局 長	江 刺 純 (22期)
理 事	川 村 政 美 (1期)
	中 村 松 樹 (4期)



学校祭風景 (沢山の同窓生が保護者として支援しています)



同窓会入会式 2月28日

Eメール

rebun-zl@hokkaido-c.ed.jp

URL

http://www.rebun.hokkaido-c.ed.jp

住所等に変更が生じた場合は各期学年幹事または礼文高等学校同窓会事務局(担当:磯辺・瀬戸川)までお知らせください。

TEL 0163-87-2358

FAX 0163-87-2301

おねがい

平成二十九年度は、礼文高校創立四十周年にあたります。

祝賀行事は計画されていませんが、同窓会として母校の四十周年を祝い、礼文島内は元より、広く知っていただけのような活動をしていきたいと考えています。

そこで、全国の同窓生からメッセージを寄せていただき、在校生や礼文町の皆さんに学校祭などで紹介させていただく機会をつくりたい。その様子を礼文高校のHPでお知らせします。

同じく、HP上に現在保存している『潮騒』をご紹介しますと考えておりますので、ぜひご覧下さい。

編集後記

記念すべき創立四十周年の年に、記念すべき『潮騒』第十号を発行することができ、とても嬉しく感じています。第十号は現在の礼文高校をお知らせすることを中心に編集しました。

原稿をお願いした佐竹卓校長先生、伊藤政伸先生には短期間での執筆となり大変ご迷惑をおかけしました。お二人とも「礼文高校同窓会のためなら」と、快くご寄稿いただきましたこと、心から感謝いたします。また、卒業生の佐藤礼実さんには、現在の礼文高校での三年間を生徒の視点で生き生きとした文章にしてくださいました。併せて、全会員の住所確認にご協力いただきました学年幹事の皆さまに、紙面上で失礼とは存じますが深く感謝申し上げます。

